



Q&A これからの広報紙に期待することを、行政連絡員の田中さんにお聞きしました。

市民の顔が見える広報紙に

下船渡地区行政連絡員 **田中彰雄**さん

わが家は、三世代が同居しています。広報紙は、それぞれが興味のある部分を読んでいきます。妻は、記事で知ったイベントに参加したりしています。

広報紙の全体的な印象として、文字が多いと感じます。もう少し、人の写真が載っていれば、「誰かな？」と気になって見たり、読んだりするのではないかと思います。これから、もっとみんなの興味を引く、ゆっくりじっくり読めるような広報紙になることを期待しています。

広報紙は、行政連絡員を経由し、班長によって各世帯にお届けしています。田中さんは、毎回210世帯分の広報紙を、25班分の班長に配布します。班に所属していないアパートには、田中さんが直接配ります。配布作業は約2時間かかります。「行政区の皆さんのお役に立てるのはうれしいことです。元気に動けるうちは、頑張ろうと思っています」と話します。



見やすく変更したラインのリッチメニュー

そこで、興味を持って内容を見てもらえるよう、各SNSの特性を生かした発信をするため、次のようなルールを作り、運用を始めました。

- SNSをさらに使いやすく

その中で、興味を持って内容を見てもらえるよう、各SNSの特性を生かした発信をするため、次のようなルールを作り、運用を始めました。
- ライン

市民の皆さんに向けて、生活関連情報を発信します。画面に固定表示されるメニュー（リッチメニュー）も11月から改善しました。
- フェイスブック

市民、市外の方に向けて、市の動向や魅力を発信します。注目の事業やイベントなどの様子も詳しくレポートしています。
- X（旧ツイッター）

市民、市外の方に向けて、「旬」の大船渡の話題を投稿します。イベント当日の会場の様子などを写真や動画などでお届けしています。
- ユーチューブ

全国に向け、市の魅力を発信します。地域おこし協力隊員が制作した大船渡の魅力を伝える動画も投稿しています。

SNSでの発信は、毎月、閲覧者がどのような内容に興味を持っているのか、反応を分析しています。SNSを利用する皆さんが欲しい情報を、的確に発信できるように努めています。

特集 大船渡、これからの広報活動



よりよく伝える。人と人をつなげ、結ぶ。

「広報おおふなと」は、10月20日号から紙面をフルカラー化し、全面リニューアルするとともに、月1回の発行としました。今月は、広報紙をはじめとする本市が目指す「これからの広報活動」について特集します。

広報紙

読みやすく 伝わるように

今回の広報紙のリニューアルは、市の広報改革の一環です。市では、広報紙を市民と市をつなぐ重要な情報伝達的手段として、一層親しまれるよう制作に取り組んでいます。

また、市の施策や方針を丁寧にわかりやすく伝えるため、特集記事の充実を目指しています。これからのまちづくりを、共に考えるきっかけになるよう、市の考えや課題を市民の皆さんにお知らせします。

一方で、「広報紙の発行回数が減っても、今までみたいに十分な情報がちゃんと届くの？」という声が寄せられています。これまで広報紙には、一部のみにだけに関わることや、対象者に通知している情報なども掲載していました。月1回の発行に際し、掲載する記事は、「広く市民に伝えなければならぬもの」に絞りました、必

要な情報は今までどおり掲載します。限られた人や事業者に向けた情報は、ホームページやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）（※）を活用して、より早熟的確にお知らせします。

（※）SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）

SNS スマートフォンも活用

総務省の「令和4年通信利用動向調査」によると、スマートフォンを保有している世帯は、全体の88・6%（令和3年）でした。SNSを利用している人の割合も80%に上っています。

こうしたデジタル機器の普及に伴い、市では、広報紙とホームページに加え、X（旧ツイッター）、フェイスブック、ライン、ユーチューブなどのSNSも使って、広報紙に掲載しない情報や即時性の求められる情報を発信してきました。